湘南わかばグループ　健康ニュース

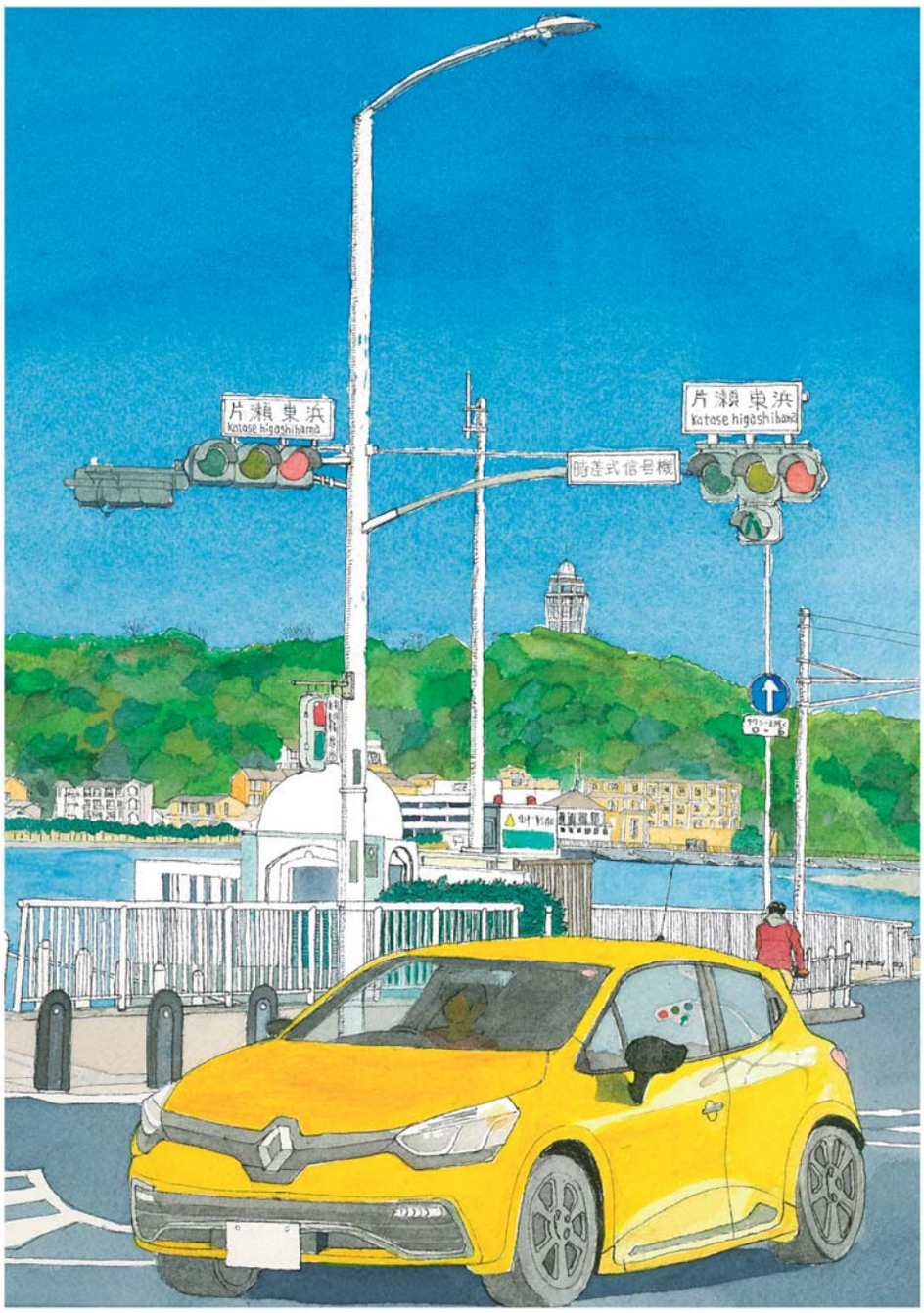
No.244　春　号

わかば

主な記事

2022年度を迎えて／最新医療を知ろう！／ワンポイントクリニック「お薬のはなし」／或る外科医の一代記「大学医学部の頃③」／話の道草「芋正月」／地域施設紹介

「ときのわすれもの」～住むまちの風景～



タイトル『東浜交差点』

国道134号線、境川の河口にかかる橋は片瀬橋、その橋の鵠沼側は片瀬西浜、腰越側は片瀬東浜です。大和に向かう国道467号線は、その片瀬東浜交差点から龍口寺の前を通って大和方面に向かいます。

片瀬交差点から少し東へ進むとまもなく鎌倉市腰越漁港、小動岬へと続きます。交差点の近所に住む友人の散歩コースは、信号を渡ったら西へ、片瀬橋を渡ると相模湾の先に富士山が大きく見えるお気に入りのスポットがあるそうです。片瀬東浜交差点から江の島を見るのは特別スポットです。

2022年の今、ドライバーは江の島より、信号先の道路の渋滞状況が気になるかもしれません。

（作者　涌井　健／企画　宮原青子）

特定医療法人社団若林会

● 基本理念　地域の人々とともに歩み健康を守り
良質な医療と介護を提供します

● 基本方針　いつでも受けられる医療と介護
包括的な医療と介護
地域に出る医療と介護
納得ずくの医療と介護

◆ 湘南わかばグループ　湘南中央病院 ／介護老人保健施設 湘南わかば苑 ／ わかば訪問看護ステーション
若林会居宅介護支援事業所／藤沢市明治いきいきサポートセンター（地域包括支援センター）

2022 年度を迎えて

医療法人社団若林会　理事長　長田博昭

はじめに　思い起こすに既に 2 年余、新型コロナウィルス感染症のパンデミックを受け医療提供体制を縮小せざるを得ない状況に陥りました。また一方で県の要請により「帰国者・接触者外来」、「発熱外来」にエネルギーを費やして参りました。通算 7,000 名を超える方々に対応いたしました。

また、新型コロナワクチンは 3 回目の接種中で今後新型コロナウィルス感染症も終息の可能性もありますが、尾を引く場合は現態勢を維持し夏以降に 4 回目の接種を検討する事も念頭に置くべきでしょう。

医療行政においては病床削減と回復期・慢性期へのシフトが既定路線です。しかし、当医療圏では病床の増減調整は不要のようです。一方、在宅医療等の需要予想は 2025 年度には 159％になると予想されています。

本年度の診療報酬改定では改定率 0.43％増（医療本体部分）と決定されましたが、その内容は主に看護職等の給与アップに向けられ、診療報酬部分については算定要件の厳格化もあり減収が懸念されます。

今年度の診療体制

当院では急性期治療、地域包括ケア体制の機能を維持しつつ、回復期のリハビリテーション、長期療養、緩和医療の提供を進めて参ります。

特に**地域包括ケア病棟**におきましては、当院や他医療機関での急性期治療や手術後の患者さんの受入れ（ポストアキュート）、また自宅や介護施設からの肺炎や骨折等での入院（サブアキュート）という医療提供が可能です。さらに入退院支援に向け関連施設との連携を深め地域医療を推進してまいります。

回復期リハビリテーション病棟は、リハビリテーション専門医の増員を果たしました。また理学・作業療法士等のスタッフの増強も図りますので、入院時における重症度の高い患者さんを積極的にお受けしてリハビリテーションを実施していきます。

緩和ケア病棟では、新型コロナウィルス感染症の影響で余儀なく閉鎖せざるを得ない状況となっていましたが、この 4 月から少しずつ病床を開放するので患者さんをお受けしていく体制が整います。そうなりますと、在宅診療科との連携が進み患者さんはご自宅で、もしくは病院で疼痛管理等が受けられ「最良な緩和医療」を提供することが可能になります

健康管理センターは、今年 4 月から大幅に業務を縮小いたします。今後はワクチン接種（新型コロナ、インフルエンザ、肺炎球菌、麻疹、風疹、帯状疱疹等）、がん検診（藤沢市）は継続いたします。がん検診は胃がん、乳がん、前立腺がん、肺がん、大腸がんをお受けすることができます。

特に肺がん検診では「低線量 CT 検査」をおこなうこともできます（別途自費負担）。この検査は胸部エックス線写真と比較して、より小さくより早い時期のがんを発見できることが国内外の研究で報告されています。検診予約、検査内容については健康管理センターに直接お問い合わせください。

新年号でお伝えしているように、**医師の働き方改革**や**新型コロナウィルス感染症**後の病院経営には多くの課題が残されています。**SDGs** の目標設定もしなければなりません。地域の方々にもご理解、ご協力を求めていくことが予測されます。「未来」に繋がる「今」を創出すべく邁進いたします。ご支援よろしくお願い申し上げます。

最新医療を知ろう！

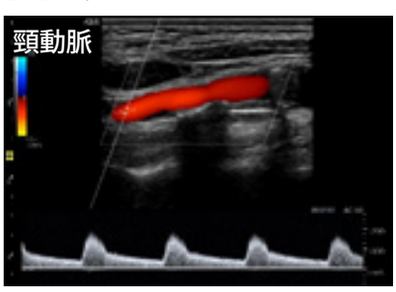
最新鋭の超音波画像診断装置を導入しました

臨床検査課　課長　鈴木　学

このたび当院臨床検査課に、最新鋭の超音波診断装置 (GE ヘルスケア製 LOGIQP10) を導入しました。

この超音波診断装置（以下、エコー機）の特徴は、軽量、ハイエンドから踏襲された高画質と高機能、コンパクトな設計。大画面モニターにより細部まではっきり観察ができることにより、病変などがより見つけやすくなりました。エコー機本体およびプローブ（患者さんの体に当てる機器）において上位機種ならではの技術を採用する事により、患者さんへプローブを当てる時間が少なくなり検査時間の短縮につながります。

実際に使用してみて特に驚いたのは、頸動脈内や下肢血管など血管内の血流の流れが非常に細かなところまで表示できることです。



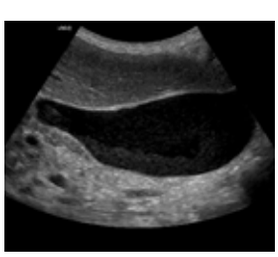
また、乳腺検査で腫瘤があった場合、通常は白黒（B モード）の観察の他に血流の流れをみるカラードップラという機能を使って腫瘤内の観察をします。それに加えて、本装置には「ストレインエラストグラフィー（以下、エラストグラフィー）」という機能が搭載されております。これは、腫瘤があった場合、

加圧し腫瘤内の「歪み（ゆがみ）」を見ることにより「組織の硬さ」を色で識別します。加圧の程度は検者により異なるため、圧が適切にかけられているかどうかは「グラフ」で表示され、検査を行うものにとっては高い再現性を担保できます。一般的に乳がんなどの悪性の腫瘤の場合、その組織は固くエラストグラフィーでは組織が硬いことを示す「青色」に表示されます。

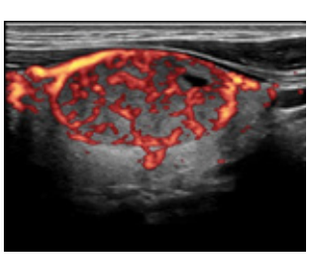
その腫瘤が悪性かどうかは、最終的に医師が腫瘤内の組織を採取する病理診断などの精密検査で診断されますが、超音波検査では「白黒（B- モード）」に「血流の流れ（カラードップラ）」に「エラストグラフィー」を加えることにより、腫瘤内に血流が豊富で、かつ硬い組織であれば、悪性の可能性が高い、逆に腫瘤内に血流がみられず、軟らかい組織であれば良性である可能性が高いことが予測できます。このような情報を医師と共有することにより、更なる精密検査が必要か、経過観察にするかの判断にも役立ちます。

エコー機は日々進歩しています。目的のものをいかに早く、綺麗に描出できるかは検査を行うものに影響されますが、まずは「（画面に）いかに綺麗に描出されるか」がとても大きな意味を持ちます。

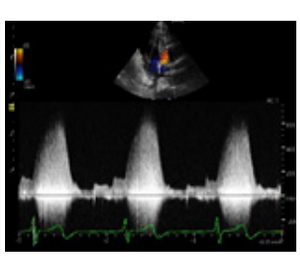
導入されたエコー機を使って、医師の診断に有用となるように、今後とも、検査スタッフ一同、日々精進してまいります。



胆嚢（胆のう）



甲状腺



心臓

ワンポイントクリニック

お薬のはなし

～５月５日～

田中薬局　羽鳥店
横島　一好

５月５日といえば「こどもの日」。また、あまり知られていませんが、「手話記念日」、「自転車の日」、「薬の日」など様々な記念日が同じ５月５日に指定されています。

少し薬の日の紹介をさせていただきます。「日本書紀」推古 19 年５月条に「夏五月の五日に、菟田野に薬猟す。鶏明時を取りて、藤原池の上に集ふ。会明を以て乃ち往く。（以下、略）」といった記載があります。その後も、「日本書紀」には何度か５月５日に薬猟を行った記載があり、５月５日の薬猟が恒例行事になっていたと思われます。そして平安時代以来５月５日が薬日と呼ばれるようになりました。このような故事にちなんで 1987 年に５月５日が薬の日と制定されました。

薬猟では主として薬効の大きい鹿の角をとっていたものが、のちに薬草も採取するようになったと言われています。旧暦の５月５日は西暦にすると６月20日になり、採取した薬草にはヨモギ、ショウブなどが含まれていたと思われます。

ヨモギは早春に摘んだ新芽は草餅や草団子になりますし、6-8 月頃採取されたものは艾葉（がいよう）という生薬で、漢方では止血、鎮痛、下痢止めとして現在でも使われることがあります。

ショウブは根茎が生薬になり、漢方薬としては鎮痛、健胃で用いられました。また、煎じ汁が食欲不振や消化不良にも用いられることもありましたが、健胃薬としての効果があるものの、独特な不快味があり現在では内服として使われることはありません。

今は、５月５日に菖蒲湯としてお風呂に入れることでなじみがあると思いますが、その歴史は古く、古代中国では病邪を払う薬草と考えられていました。荊楚歳時記（けいそさいじき）という民間のものとしては現存する最古の年中行事記に古くから長寿や健康を願って菖蒲を用いていたと記されています。

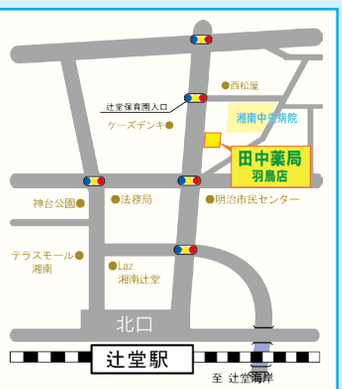
日本では戦国時代の宮廷で５月４日に菖蒲の枕を用いて、５月５日にはその枕を解き、それを湯に浮かべた菖蒲湯に浴したという記録が「御湯殿上日記」に残されています。ただ、庶民が菖蒲湯を楽しむようになったのはもう少し遅く、江戸時代になってからと言われています。

菖蒲には精油成分が多く含まれていて、血行促進や保湿の薬効があり、腰痛や神経痛を和らげる効果が期待できます。精油成分は根の部分に多く含まれる為、もし根つきのものが手に入ったら熱めのお湯に菖蒲をつけるとより効果が期待できます。また、菖蒲の香りにはアロマテラピー効果もあります。

コロナ禍でストレスのたまりやすい日が続きますが、今年の５月５日は菖蒲湯でリラックスしてみてはいかがでしょうか？

田中薬局　羽鳥店

住　　所：藤沢市羽鳥 1-3-6
電　　話：0466-31-0810
ＦＡＸ：0466-31-0820
開局時間：（月・火・木・金）
9:00 ～ 19:00
（水・土）
9:00 ～ 18:00



一代記

或る外科医の一代記　大学医学部の頃③

理事長　長田 博昭

医学部の講義に少し飽きたのと、文学への憧れから、文学部の講義を盗聴してやろうと企んだ。文学部の予定表を見て二つの講義を選んだ。一つは中世ドイツ文学で、ニーベルンゲンリートの講読。学生服の襟章Ｍをはずして文学部の講義室へ黙って侵入、７～８人いた文学部の学生達に加わった。奴らはタバコをふかしながら駄弁っていた。そこへ事務方が連絡に来た。「休講です。」奴らは当たり前の様な顔をしてさらに駄弁りのトーンを上げた。次の時間も潜り込んだのだが、又「休講」。今の言葉なら「ザケンじゃねえよ！」である。もう一つの講義は「農村社会学」であった。同様に２時間休講のあと現れた教授は「早稲田と掛け持ちで忙しく、時間が無いので今日は講義目録だけをお示しします。」と宣った。そこで文学部を卒業した。全科必修で殆ど休講のない医学部とは異なる世界を識っただけで終わったが、それも文化であろうと、今も思っている。

一方臨床講義、臨床講堂に初期の動画教材としてビデオ通信システムが組み込まれており、心臓外科学木本教授のファロー四徴症手術のピンボケ中継が印象に残っている。その患者さんは翌週に亡くなられたと後で聞いた。まだ一般に心臓外科手術の生存率が低かった時代の話である。

冬はクラスでスキーに出かけた。ある処までは行く自分の腕で楽しく滑ったり、上級資格をもったクラスメートの指導を受けたり、スキーは大好きであった。又、解剖のグループ４人で飲みに行ったこともあった。グループの大渕君が飲み屋案内書から良い店を選んでくれたので揃って都内に繰り出し、美味いおでんや抓みで飲んだ後、浅草に回ってキャバレーにしけ込んだ。飲み足しては女給さんとそれぞれチークダンスを踊った。ステップは怪しかったが、「女」を身近に感じた感触は覚えている。神楽坂ハン子の「芸者ワルツ」の一節を思い出すなぁ。言って置くが、恥ずかし嬉しかったのは医学部学生共の方であった。

そうこうする内に、医学部自治会の活動にも関わることになり、私も一段と医学・医療の社会的背景に関心が向いた。教養時代の地域視察から考察の段階に入ったとも言える。その頃既に「インターン制度」の矛盾を捉えてその改善要求と言う路線が活動の一翼を担っていた。

さて現在は、平成16年度から義務化された医学部卒業直後２年間の「初期研修」があるのだが、実に35年振りの研修義務化である。と言えば、昔にも義務化されていた時代があったのかと訝る向きも多かろう。そうなのだ。昭和20年、第二次大戦に負けた日本は進駐軍（占領軍）に統治される事になり、占領軍の主体であった米軍の方針で、米国の制度に似せて医学部卒業後の１年間は「インターン」として、研修を義務付けられた。この制度は廃止まで約20年間続いた。当時最後のインターン世代として制度の改廃に関与した私達の目には、今あの制度が２年に延長されて復活した様に見える。しかし一方、廃止に至る制度論争へのある程度の答えがやっと出た様にも見える。そこで「インターン制度」の末路を振り返ってみよう。

1960年代の医学部紛争がstudent powerの源泉の一つとなり全国的・世界的な「大学紛争」に拡大した結果、「医学部紛争」の中心テーマであった研修問題も、後世では「学生の暴力」イメージの中に埋没してしまった観がある。しかし実際は、医学部紛争当時全国の医学部学生や研修医達が協力の下、原始的ながら今で言う全国マッチングシステムをも自分達の手で運営する一方、自主的に研修カリキュラムを考案し、大学病院側との協定の下にそれを実行していたのである。あの大学紛争を今一度詳しく眺めてみるのも時宜に適っていよう。紛争の中で「事件」として記録されている事にも生々しく筆は及ぶが、そうでなければ読者にもimpactは乏しかろう。

続く…

お知らせ

５月には本稿を纏めた、同じ題名の単行本（文芸社）を出版致します。ご愛読下さっている皆様には当院売店で入手賜れるようにしたいと存じて居ります。（著者）

話の道草

宮原 昭夫

芋正月

この間お正月が過ぎたと思ったら、早くも陽春の候となりました。お正月も旧正月も過ぎ、次のお正月はまた来年……と思っていましたが、どうやら我が国には、他にもお正月があったようです。

九月二十一日の「十五夜」(旧暦八月十五日)は別名「芋正月」と呼ばれ、それに対して十月十八日の「十三夜」(旧暦九月十三日)が「米正月」なのだそうです。

ブラジルのリオをはじめ、世界中にあるカーニバルの源流は、秋の収穫祭だったようです。十五夜に名月への祭壇に里芋を供えるのは、芋を主食としていた時代の我が国の収穫祭の名残りだとのことです。対して十三夜は、米の収穫祭の名残りなのでしょう。

私の怪しげなウンチクによると、南太平洋の島々から日本列島にやって来た縄文時代の祖先たちの主食は芋類でした。彼らの常食のタロイモは現在の里芋の、そしてヤムイモが山芋の祖先なのだそうです。

その後北の大陸からやって来た弥生時代の祖先たちの常食は米でした。つまり芋正月は縄文時代の、そして米正月は弥生時代の、収穫祭の名残、ということになります。

ところで私の少年時代は、たいへん「イモ」にご厄介になった時代でした。何しろ戦中戦後は、配給制度だった主食の米が通算一ヶ月半分、欠配になったことさえあり、その間何も食べなかったら確実に餓死していた筈ですから、こうして私が未だに生き延びているのは、偏に「ヤミの買い出し」で手にいれたイモのお陰でした。私の少年時代はいわば縄文時代だったのですね。

尤も、戦中戦後の食料の主役はサツマイモやジャガイモで、これは両方ともアメリカ大陸原産だから、コロンブスのアメリカ発見以前は、他の大陸には知られていなかった。勿論縄文時代の祖先は食べていませんね。

明治生れだった亡き父は、炊事は一切やらない……というか、やれない人でしたが、唯一例外的に、トロロ飯にだけは異常な執念を燃やしました。

年に一回くらいでしたが、或る休日、突然(としか言いようのないタイミングで)自分で自然薯の皮を剝き、卸し金で摺り、あまつさえ、それを擂り鉢と擂り粉木で入念に摺り直し、予め大量の鰹節でとった出し汁を少しずつ加えながら徐々に摺り薄めて行きます。こうして出来上がったトロロ汁を、予め炊いておいた麦飯にぶっかけて一家揃ってかっ込むのですが、確かにすこぶる美味で、私は未だにトロロ飯が大好物です。

それは良いのですが、父はその作業を独り黙々とやることは決して無く、常に家族全員を巻き添えにするのが難点でした。麦飯を炊いたり用具を取り揃えたり、家族はみんな天手古舞いでした。私も幼い頃から毎回、丹念に擂り粉木を使う父のため、擂り鉢を押さえ続ける役を命じられて音を上げました。

街路と我が家の敷地との境のカナメモチの垣根に年来、自然薯の蔓が纏わり付き、秋にはムカゴを集めてムカゴご飯にしたりしていましたが、或る年、その蔓の根元を父が掘り返し始め、やがて直径一メートルばかりの深い穴が出来、その周囲の垣根そのものが消滅しました。それは自然薯を掘るためでした。やがて細長い根茎が掘り出されましたが、それが折れていようがいまいがトロロの味には変りがないだろうに、父はあくまでも無傷のままそっくり掘り出す事に固執して、垣根までも犠牲にして巨大な掘り穴を開けたのでした。

亡き父の、あのトロロ飯への固執は、もしかしたら、父の遺伝子の奥に眠る縄文時代の収穫祭の記憶が蘇ったのかも知れない……というのは、余りにも妄想が過ぎるかな?

戦中戦後の食糧難時代の主役には、もう一つ「カボチャ」がありました。私のくだらないウンチクをもうひとつ付け加えれば、瓜類の原産地はアフリカです. 少年時代に散々食べ飽きた筈のイモ類が、私は今でも好物ですが、しかしカボチャだけは未だに苦手です。

もしかしたらアフリカが源流の瓜類には馴染みがなかった縄文時代の祖先達の遺伝子が、私の中で蘇ったのかも知れない……なんていうのも益々妄想が過ぎますかね。

～地域とともに～ 「グレイプス湘南辻堂」「グレイプス辻堂西海岸」

SOMPOケア
介護の未来を変えていく

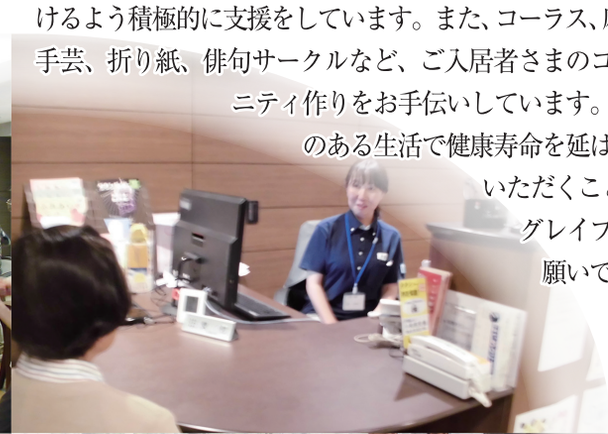
SOMPOケアのサービス付き高齢者向け住宅「グレイプス」が辻堂の地に誕生して5年。満60歳以上の方がご入居いただける「賃貸住宅」です。そのネーミングには、広がる葡萄畑と、明るい太陽の光をイメージし、ご入居者さまに実りある日々を過ごしていただけるようにとの願いが込められています。介護事業者・医療機関と連携して介護が必要となった際の確かなサービスも備えながら、地域と共生し、安心して健やかにアクティブに人生を楽しみ続けるための空間です。

自由な暮らし

自分のことは自分で決める生活を送れるのがサービス付き高齢者向け住宅です。もちろん門限、面会制限もありません。食事も外食される方、自分で調理される方、食堂で召し上がる方とさまざまです。お酒も自由に召し上がれます。自分らしく生きること。そして、楽しく暮らすこと。プライバシーが確保された生活は、心も身体も元気になります。

やる気と元気を応援します

コンシェルジュよりシルバー人材就労情報、地域コミュニティ情報、地域ボランティア募集情報、医療機関情報などを発信し、社会活動や対外的な余暇活動を楽しんでいただけるよう積極的に支援をしています。また、コーラス、麻雀、手芸、折り紙、俳句サークルなど、ご入居者さまのコミュニティ作りをお手伝いしています。活気のある生活で健康寿命を延ばしていただくことが、グレイプスの願いです。



※現在、一部イベントは自粛しております。

地域医療との連携

医療と住まいは切り離せません。館内には近隣の方も利用されているデイサービス、ケアプランセンターを併設しています。最後まで自宅で暮らし続けたいという気持ちに応えるために、医療が必要な場合には「訪問診療・訪問看護」、介護が必要な場合には「訪問介護・デイサービス」など、外部の介護サービスも自由に選べます。地域と密に連携をとりながら、ご入居者さまの豊かな人生をサポートします。

地域とのつながりを大切に

全ご入居者さまが楽しくご生活いただけるよう、地域との関わりを大切にしています。隣接する「たかすな保育園」との交流会、「歌声サロン」、地元一押しのパン屋さんによる移動販売、連携病院の無料健康相談会、地元メンバーによるダンスショーなど、アクティビティやイベントが盛りだくさんです。サービス付き高齢者向け住宅に住むことは、地域の一員になること。グレイプス自体が地域のコミュニティスポットになっています。

お問い合わせはこちら

0467-84-7070

受付時間／9:30～18:00（土・日祝日受付）
〒251-0046　藤沢市辻堂西海岸2-12-2

発熱外来のご案内 予約制

発熱、咳、倦怠感などの症状がある患者さんは、駐車場に設置しました「発熱外来」で診察を行います。

https://www.swg.or.jp/

予約・お問い合わせ→ ☎0570-003252

詳細は、院内の掲示とＨＰでご確認ください→

◆４月の外来診療担当表◆

専門外来

	午前・午後	月	火	水	木	金	土
内分泌(糖尿病)	午前 午後		酒井 (午前) 予約		酒井 (午前)(午後) 予約		酒井 (午前) 予約 (第 3.4)
呼吸器内科	午前	福﨑 予約					
肛門外科	午後	松﨑					
胸部 化学療法外来	午前		長田 予約				
皮膚科	午後	中平				岡庭	
心療内科	午前				三吉 予約		
神経内科	午前 午後					松川 予約	
リハビリ科	午後	○ 予約					
リウマチ科	午前						永渕(泰) 予約
緩和ケア内科	午前	福﨑 予約		中島(光) 予約		片町 予約	
禁煙外来	午前				長田 予約		

外来診療受付時間 午前 8：30 ～ 11：30 ※再診受付 午前 8：00 ～
午後 2：30 ～ 4：30

休診 水曜午後、土曜午後、日曜日・祝日

一般外来

2022 4.1 現在

	午前・午後	月	火	水	木	金	土
内科	午前	村川 一般	小川 一般 循環器	新城 一般	岡 一般 神経内科	村川 一般	岡 第1・3・5 新城 第2・4
		岡 一般 神経内科	岡 一般 神経内科	岡田 一般 循環器	永渕 一般	新城 一般	永渕 第1・3・5 岡田 第2・4
		小川 一般 循環器	岡田 一般・循環器 第2・4	-	相澤 (予約)	相澤 (予約)	相澤 第2 (予約)
	午後	奥脇(裕) 一般 消化器	永渕 一般	-	新城 一般	小川 一般 循環器	-
		岡田 一般 循環器	-	-	-	相澤 第1・3 (予約)	-
外科	午前	呉	池田(清)	呉	(輪番制)	松﨑	松﨑
	午後	松﨑 一般・肛門	-	-	呉	池田(清)	
整形外科	午前	迫	-	横山	-	-	-
		池田(全) 一部予約	芹ヶ野	池田(全) 一部予約	芹ヶ野	中島(大)	立岩
		今井	今井	山本	今井	宇都	宇都
	午後	立岩	宇都	-	池田(全) 一部予約	迫	-
		-	-	-	横山	-	-
泌尿器科	午前	多田	多田	多田	多田	多田	多田 (二宮)
	午後	-	多田	-	-	-	-
夕方診療	午後	-	呉 4:30~7:00	-	-	-	-

※医師の都合等により休診・代診となる場合がありますので、事前にお問い合わせ下さい。

湘南中央病院 今月の外来ギャラリー

松尾 清 水彩画展

タイトル：辻堂海岸

長崎県出身、藤沢市在住。定年後、鎌倉水彩画塾に入り水彩画を始める。2021 年４月､同画塾展に出展。「自然体で楽しみながら」をモットーに幅広いモチーフに目をむけた作品作りを行っている。

連絡先：松尾 清 ☎ 090-4439-3644
E-mail : wakadai007@ezweb.ne.jp

展示期間（2022年4月～6月）

編集後記

はじめまして、白土佳男と申します。昨年より編集委員となり、初めての編集後記ですので自己紹介を！ 現在､「湘南わかば苑の副施設長」と「営業推進室の室長」を兼務しております。営業推進室では、法人の基本理念と方針をモットーに、地域の方や近隣の医療機関・施設の方に安心して利用していただくための活動を日々行っています。

その活動の一つとして、要望がありました、藤沢北部地域（大庭、西部団地・駒寄地域）へ無料循環バスを 2020 年 11 月 16 日から運行しました。運行の循環経路ではない地域の方からはバスを「停車してもらいたい」との声があり大変有難いお言葉をいただいております。より多くの皆様にご利用いただける様、改善努力して行く所存です。

そして、今回「わかば」にて、当法人グループにご支援ご協力いただいている病院・福祉施設、また地域に関わる情報等を伝えていければと、「地域施設紹介」コーナーを再開いたしました。ご一読いただき参考情報となれば幸いです

（営業推進室 白土 佳男）

発行者 ／ 特定医療法人社団若林会 長田 博昭 編集責任者 ／ 呉 鐵仁（わかば編集委員会）
〒 251－0056 藤沢市羽鳥1－3－43 ☎ 0466（36）8151 URL https://www.swg.or.jp E-mail wakaba@swg.or.jp